

プール活動・水遊びに関するチェックリスト^注

～ 監視を担当する職員・スタッフ用 ～



プール活動ごとにチェック

監視者は、監視に専念しなければなりません。
 プール活動の指導や片付けをしてはいけません。
 一瞬たりとも子供たちから目を離さないことが大事です。

【プール活動・水遊びの前に】



目立つ色の帽子やビブスなど、周囲から誰が監視者であるか分かるものを身につけましょう。子供たちに、「監視の先生はみんなを守ることが仕事なので、話しかけない、用を頼まない、一緒に遊んだりできないこと」を知らせておきましょう。



- あなたが監視する位置と時間を確認しましょう。
- ・監視エリアの全体が見えるよう、プールサイドで水の外から監視をしましょう。
- ・集中力を保つため、できるだけ定期的に交代しましょう
- ・複数名で監視をするときは、担当エリアを確認しましょう。

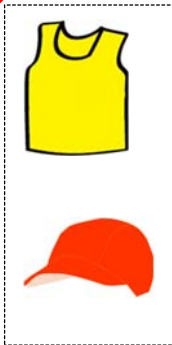


- 園で決めた緊急時対応の手順をあらかじめ確認しましょう。
- プールサイドに、連絡手段（電話など）やAEDがあることをあらかじめ確認しましょう。



【プール活動・水遊び中】

- プール全体、子供たち全員を監視しましょう。
- ・規則的に視線を動かしながら監視しましょう。



(出典：特定非営利活動法人日本ライフセービング協会編 2017年9月10日発行「プール・ライフガーディング教本」P.35～36)

- ・監視場所に近いところや、浅い場所など、一般に安全と思われる場所も、監視がおろそかにならないよう、注意してください。
- ・溺れるときには、「助けて！」「バシャバシャ」といった状況とは限らず、実際には静かに溺れることも多いと言われています。動かない子供や不自然な動きをしている子供がいかに留意しながら監視をしましょう。
- ・子供たちの表情にも注意し、声をかけたり注意を促したりしましょう。
- ・担任の先生と連携し、水が苦手な子、体の動きがぎこちない子、指示が伝わりにくい子、興奮しやすい子などの子供理解の上で監視をしましょう。
- ・ヒヤリハットを経験したときは、情報を園内で共有しましょう。

【万一、子供たちが溺れたときには】



重篤の場合は、**すぐに119番通報**をするとともに、**救命処置**をしましょう。

(注 本チェックリストは、消費者安全調査委員会が、アンケート調査において幼稚園等から回答のあった独自の取組を参考にして作成した。)